



匠林

SAKABAYASHI

隨筆特集

至高の陶醉



金刀比羅宮蔵 寛政6年(1794年)円山応挙 晩年の作(部分)

230余年の伝統の技が贅をつくした「煌」きらめき

讃岐の金毘羅酒として親しまれてきました錠陵が、酒づくりの贅をつつておくりだした清酒「煌」。

金陵の歴史は今をさかのぼること三〇余年の寛政元年。当主八代目であった西野嘉右衛門が、金

星羅さんの意ではじめた酒づくりがその第一歩。以来、金刀比羅宮のご神酒として栄誉をうけ、そ

の丹精こめた手づくりの味は、金毘羅詣での人々からもよく親しまれてきました。

清酒「煌」のえも言われぬ風味と心へには、金陵の心意気と酒づくりの神髄が細やかに

思っています。

真珠玉のべとく搗きあげ

水晶のべとく研ぎすました酒造好適米(山田錦)

清酒「煌」に使っているのは、酒造好適米の中から選りぬかれた最高の大粒米。これを丹念に高度精

白し酒の雑味等の原因となる外層部を削り、磨き、吸水のよい、粟粒よりやわらかい、玄米のわず

かる割ほの、まるで真珠

玉のようなかだけ酒米

とする。これを、良質

の寒の水でくり返々

り返し研ぎすまし、本

格的な酒づくりの仕込

みへと移っている。

昔から「一廻二酛三

造り」といわれいる

とおり複雑多岐にわたる

工程を熟達の手でつづ

て、技の限りを尽くし

て、



つこなしにいく。杜氏は寒中夜も眠らず、

低温でじっくりくりあげる。

こうして、清酒のアルコール分、旨味を米のけから造り出した、手づくりの微妙精緻な煌を誕生

させたのです。

芳醇なこく、口あたりの爽やかさ、喉ごしのよさ、まさに清酒の芸術品。この稀なる清酒「煌」を、

日本酒をこなく愛するみなさまにじっくりと味わいつくしていただきたい。

煌
金陵

超特撰

税込
標準価格 10,800円 1.8L
5,400円 720ml

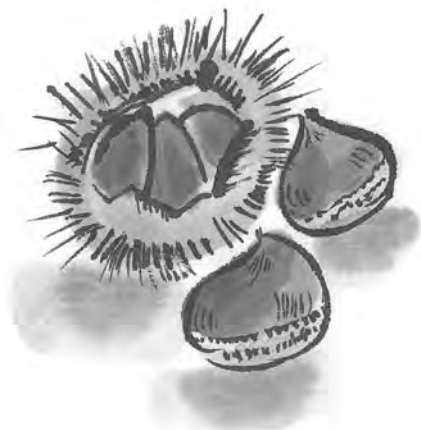
ラベル右下に記しております番号は、
一本一本責任をもって製造いたしました
品質の証し。ご入手いただいた
貴方さまだけの番号です。

西野金陵株式会社 香川県仲多度郡琴平町六三三 電話(〇八七)七三三三 四三三三
本号生者の清酒は分装で販売されています。紙箱中や授賞期の飲用は気をつけましょう。

酒林

SAKABAYASHI

隨筆特集



第98号

酒林

SAKABAYASHI

随筆特集

酒と肴・魚くサワラという魚の面白さく

長寿大学で学ぶ

鼠径ヘルニア

古い歌から

逆転の発想

ほろ酔い詩歌紀行——『俳風柳多留』を読む

御世代りの桜

源大夫の説話、そして香川県と北海道の縁

絵と文 妖精

山本義久…4

山西無聞…6

杉本忠夫…8

内野潤子…10

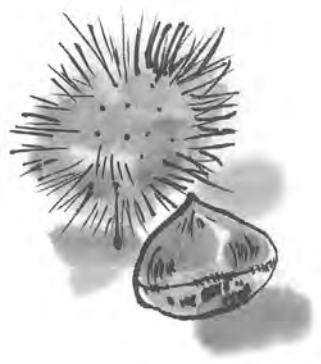
池井優…12

日高昭二…14

宮地智子…16

志村有弘…18

佐川毅彦…20



絵と文 におい桜 中西美子 21

他人が良く見えて来ないうちは 志村栄至 22

明智光秀の里で 高橋和島 24

あほくさ、と母親は言った 片岡義男 26

呪縛 山本千明 28

ミノムシの糸 宮本富夫 30

絵と文 ちよつと変わったオーストリアの温泉 さかもとふさ 32

マルクスの不倫(下) 池田一貴 33

表紙・グラビア 豊稔池堰堤 (ほうねいけえんてい)

酒と肴・魚くサワラという魚の面白さく

山 本 義 久

（国立研究開発法人 水産研究・教育機構）
水産大学校 水産流通経営学科 准教授

今回から執筆させていただく、表の

稼業は水産大学校の教員で水産もろもろを研究している。裏稼業は、自称食文化研究家、またの名は居酒屋やまちゃん。居酒屋をやっている訳ではないけれど折に触れ、ご馳走を作って来客をもてなす趣味があり、不定期に開催する居酒屋やまちゃんとして、酒と肴・魚をこよなく愛す元呑み助（元がついているのは脳卒中で倒れて復帰したばかりなので）である。そのため特に魚と酒の食文化を中心に執筆させていただく。

今回のお題は「サワラ」。私が独断的・偏見的に時に根拠に基づいて疑問を検証していきながら楽しく食と魚、そして酒と肴を深堀していくつもりで

ある。

（1）その名の由来の再検証

サワラは魚編に春と書いて、「鰭」。瀬戸内海ではその名の通り、春に産卵のために戻ってくる。産卵回帰性がある魚であり、春には、卵を産むために産卵場に回遊し、漁師は待ち受けてそのご馳走を獲ることが出来る。春に多く獲れる魚であるため、その漢字名が付いた。お花見の季節にぴったりの魚である。

一方、語源由来辞書では、サワラは歴史的仮名遣いは「サハラ」であり、「サ」は「狭い」「ハラ」は「腹」の意味で、解説ではマグロを細長くしたようなその体形から「サハラ」になった

とあるが、私から見るとどうもここが疑問が。通説ではスリムな体形が語源の元、そうであればわざわざ「ハラ：腹」と明記するのは？ なぜなのか。

別府の鉄輪温泉の地獄の様にふつふつと疑問が、湧き上がる。そもそもそのまま意味を繋げると単純に「腹が狭い魚」と読める。ここで瀬戸内海のサワラが語源に繋がったということを前提と考えるとすると、春に市場や魚屋で見るサワラは、お腹がべったんこだ。即ち産卵のために腹部にある卵巣がばんばんに張るまで充満し、その後、卵をすべて産み終えてべったんこに、猫背に見えるようにお腹がすつきりとへっこんだ姿は語源のそのまんまやんという感じである。

ここでの説の検証。サワラは産卵
回帰する魚として知られているのは事
実。(香川県水産試験場等の調査デー
タ) また瀬戸内海には燧灘や小豆島周
辺の備讃瀬戸などに産卵場があるのは
周知の事実。その産卵場目掛けて帰っ
てくるサワラを目当ての漁業があるの
は事実。昔から瀬戸内海中央部周辺海
域ではサワラが春にたくさん獲れて、
食文化が形成されているのは事実。こ
の事実を繋げれば、つまり、昔から瀬
戸内海でたくさんとれたサワラは食文
化があるように重要な魚であり、瀬戸
内海に産卵のために春に戻ってきて、
産卵前後のサワラがたくさん水揚げさ
れ、市場に出回り、庶民や名を付けた
学者が目にしたのは産卵後のお腹が
へっこんだサワラの姿。即ち「腹が狭
い魚」が正解では? と検証。

しかしどうして解説ではマグロの体
形を比較基準に挙げたのは定かではな
いが、そもそも回遊魚は高速で泳ぎ、
ここでのマグロの体形の様に紡錘形で
あり、この体形になったそもその理

由は水流の抵抗が少ない形状だからで
ある。しかし、残念ながらサワラの体
形は紡錘形ではない。他の魚と比較す
ると類似するのはサケの様な体形。比
較的細長い流線形で、体幅が狭い。な

ぜサケにしなかったのか? 「酒林」の
随筆ではちよどこよかったのに。と落
ちが付いたところで: 本題の前にもう
一つサワラの生物学的知見を少し。

(次号につづく)



長寿大学で学ぶ

山西無聞



「いつまでも有ると思うな妻と飯」と、月めくりカレンダーの裏に大きく毛筆で書かれた紙が、書斎の壁に貼られた。

五十九歳で勇退し、その後も十数年はフルタイムで働き、完全にリタイヤして、ただの年寄りになって数ヶ月。「明日でよいことは、今日もしない」をモットーにして、終日をバジヤマ姿で過ごす優雅な生活を楽しんでいた。

毎日、庭に出て日向ぼっこをしていると、道路で遊んでいた近所の園児が「おじいちゃんは病氣？」と聞く。家内は「毎日ゴロゴロしていたらボケるよ」とか「着替えて散歩でもしたら」などと優しく言っはいたが、そのう

ちに「働かざる者食うべからず」とか「金の切れ目が縁の切れ目」などといつて脅す。それでも無視を続けていたらこの文である。家内は達筆で、文字に怒りが感じられ迫力がある。私は終日のんびりと、無為に過ごしたとしても、決して一日を無駄に過ごしたとは思っていないし、むしろ十分に満ち足りた一日を過ごしたと思っていたのであるが、さすがに少々恐怖を覚えた。

日本の女性の社会的地位は先進国で最も低いといわれている。世界全体で見ても百番目に近いという。家内を見ていると私にはとても信じられない話である。ちなみに家内は、結婚以来の

専業主婦である。
そこでやむなく家内の勧めに従い、家内が数年前に卒業していた、かがわ長寿大学に入学の申込みをすることになった。

長寿大学への入学希望者は結構多くて、毎年の競争率は高く、二回、三回の申込みでやっと入学できるとのことであり、この年も三、五倍の狭き門であったが、意に反して一発で入学となった。

書斎に貼られた文は携帯の待受け画面に取り込み、日々の戒め書きとした。

さて、入学式で説明された、かがわ長寿大学の開講の趣旨は、「喜びあえる長寿社会ががわの実現をめざし、高

齢者に対して生きがいと健康づくりに関する講座等を実施することにより、高齢者の生きがいとそれぞれの地域社会での活動参加の促進を図り、長寿社会を担う地域社会での実践的な指導者を養成することを目的とする。」ということである。このことからすれば「毎日をボーと生きている」ことに最大の意義があるとボーと考えている私などはとても入学する資格は無いといわざるを得ない。

授業は、一日二課目で一課目が九十分、一年間に五十一課目の講義を受ける。履修期間は二年である。学習内容は、健康管理、財産の管理そして教養科目などである。

定員は百九十二名。毎年女性の申込が多く、この年も女性が七割であった。平均年齢は私の年より一歳上の七十三歳。

授業に出席してみると、当然回りは「じじ・ばば」ばかりである。多くの講義は私には興味が無いもので、講義中は居眠りすることが多かった。主

催者は講座を通じて知識や教養を深めるとともにグループ討議等を活用して受講生相互の仲間造りや社会参加活動を期待している。そこで、コーラスや俳句、書道、手話、山登り、旅行等の多くの同好会が発足したが、根が消極的で社交性に乏しい私には、誰も声を掛けてくれる者も無く、二年近くどの同好会にも所属せずにいた。

ところが二年目の正月に同じ班（十二名で構成され、男は二名）のもう一人の男性から年賀状をもらったことがきっかけで旅行クラブに誘われ、入会することになった。会員は六十名程おり、月に一回か二回の旅行を計画しており、参加したい旅行にのみ申し込めばいいのである。早速一月の「瀬戸の島巡り」二月の「高知の雪割り桜見物」に参加した。昼間から酒が飲めることだけで十分に満足した。酒飲みの仲間も二、三人出来た。三月は卒業旅行ということで「皆生温泉一泊旅行」で、これにも参加した。参加者は十七名（うち男は七名）と少なかった

が、親睦を図るには丁度よい人数で、懇親会は大いに盛り上がった。その席で「好きな女性は？」と聞かれたので、「私は若いときから内気な性格なので、しっかりした年上の女性が好きです。」と答えたところ大いに受け、翌日バスに乗ると年配の女性から隣に座るように声を掛けられた。彼女は数え年で丁度八十歳といい、四年前に夫を亡くし、それをきっかけに長寿大学に申込をし始めたという。趣味は社交ダンス、カラオケ、旅行等多趣味である。おかげで話が弾み、さらにチャコレート等をもったりして楽しく旅を続けることが出来た。旅行クラブには卒業後も続けて参加したいと思っている。

さて卒業の日が来た。卒業後は再び以前の生活に戻って、ボーと生きて生きたいのであるが、家内の目が心配である。そこで、携帯の待受け画面を家内の笑った顔の写真に変えることにした。

このほうが一層恐怖感があって、より強力な戒めになると思う。

鼠径ヘルニア

杉 本 忠 夫

(虎の門病院 内分泌代謝科
非常勤嘱託医)



輝かせ、両手に手術手袋をし、仁王立ちになった勇ましい姿を思い浮かべる方が多いかと思われます。

最近、医療技術が進歩しています。鼠径ヘルニア（脱腸）の手術もその一つです。このようなことは、先ほど述べた種々の手術についても言えることです。

まず、鼠径ヘルニアの手術を受ける場合ですが、まず手術について丁寧な説明が行われます。次に、鼠径ヘルニアの手術についてその経過と手術の説明をみてみましょう。

たとえば、どちらかの鼠径部のしこりに気付かれた方は、びっくり仰天し、ガンではないかと、近くの外科の先生の所に急遽駆け込みます。

診察された外科の先生は優しく笑いながら説明をしてくださいます。これは、おそらく鼠径ヘルニア、昔から言われている「脱腸」と思われますと、おっしゃるでしょう。この言葉の後に、いまは簡単な手術で治りますよと言われます。

最近、コンピューターの急速な技術進歩により、技術革命は自動車の自動運転などに応用されるようになってきました。

また、それに伴い医療技術も著しく進歩し、目を見張ることが多く見受けられるようになりました。その進歩のひとつとして理解しやすい外科手術をみてみましょう。

外科手術には心臓に始まり、胃、脾臓、胆嚢、大腸、膀胱、脊椎など種々な手術があります。

ここでは、手術としては比較的初歩的な手術である鼠径ヘルニアの手術を例に取りあげてみましょう。

手術といえは、外科の先生が手術室で手術帽を冠り、顔じゅうを隠すような大きなマスクをし、目をらんらんと

病院の外科への紹介状で病院の一般（鼠径ヘルニア）科の先生を紹介され、その病院の受診を勧められます。

一般的には外科の先生方は、一見近寄りたがたい雰囲気があることはやむをえません。何となく気が引けますが、勇気を奮って受診してください。

現在は病院の先生に優しく診ていただける場合が多くなりました。

そして、担当の外科の先生は開業されている先生が診断されたように間違いないく、鼠径ヘルニアです。早く見つけていただいて良かったですねとおっしゃられるでしょう。

そして、手術に必要な検査を受け、検査に異常が認められないことを確認します。異常がない場合は早速、ご都合の良い日時に手術をすることになります。

大きなマスク、大きな手袋をした何となく怖いイメージを持った先生とは違った、優しい先生に、手術をお願いし、一安心して病院を離れます。

その前に、予め先の外来の予約を

し、手術の説明をしていただく予定日を決めておきましょう。

手術の説明はまず、最初に、従来の手術の方法の説明があります。

まず、しこりのある鼠径部に沿って切開し手術する方法を説明していただきます。

次に、お腹の二ヶ所に直径五ミリ大の小さい穴を開け、その二つの穴と臍を利用して手術を行う方法です。このような二つの手術法を説明していただきます。

いずれの方法も出血などの心配なことはありません。

いよいよ、入院の日がきて入院すると、すでに手術の準備が整っていて、手術物の整理もする間もないくらいです。

「こんにちは!! 何々さん」ですね。担当の看護師の「○○」です。よろしく願います。そして「何月何日に手術の予定ですね」と確認されま

す。
手術当日、病院の都合で寝台車にす

るか、または歩いて手術室までいきます。

手術室に入ると、本人の氏名の再確認。「何々さん」ですね。お生まれは「何年何月何日」の確認が行われます。手術台に横たわると直ぐに麻酔薬を注射されて、一・二・三・と数を数えてくださいと言われます。一・二・と数える内に麻酔薬が直ぐに効いてきます。

麻酔薬が効いてきたあとは、麻酔が覚めるまで本人には分かりません。本人にとっては極楽です。

翌日、術創部の痛みもほとんどなく、洗面、トイレはもちろん食事美味しく頂けます。このような快適な生活ができるというなと思っていいたら、

「何々さん」退院ですよ!!

おめでとうございます!!

この看護師の言葉で現実には引き戻されてしまいました。

現在の急速な医療技術の進歩・革新に乗り遅れないようにと考える今日この頃です。

古い歌から

短歌を作りだしたのは小学六年生の頃です。それから女学校に入り真島武先生という早稲田出の先生がみてくさいました。実践女専の国文科に入ってからのもっぱら谷田さん（詩人の牟礼慶子）に啓蒙されて、若山牧水の残された創作社の末座に入れていただきました。

昭和二十一年頃から十年近く歌誌「創作」に十首ずつ歌を送っていました。欠詠も多かったけれど、小さな子供をかかえて、日常のこまごました事に追われている時には、三十一文字の中にほととずる吐息をこめて、子供の寝た後や少しの時間にそれこそ台所の黒板にでも走り書きし、ずい分慰められました。



実践の仲間たちで作った同人誌「流動」が出るようになってから、上手下手、文学になるかならないかはともかく、短歌では言いつくせないものの、根強いものを散文の形で表したい気持ちが強くなったので、とうとう短歌を毎月送ることを止めてしまいました。

こんな事を言うのも恥ずかしいのですが、私は小説を書きたかったのです。一、二篇は自分でも気に入ったものが書けたのですが、根が続きませんでした。時代小説家の父を横目で見てみると、昼夜を問わずひたすら机にかじりついていきます。もとより私にそんな時間が許されるはずありませんでした。

まだ十七、八の頃、赤羽の被服廠に

内野潤子 (歌人・エッセイスト)

兵隊の着る軍服を縫う仕事を与えられていた時、台湾から一人留学している玉蘭（仮名）という女性と親しくなりました。玉蘭も被服廠に動員されていた学生でした。たつぷりとした胸や腰がみのっている女を感じさせましたが、それでいてしなやかに軽く歩く。太陽の照りつける土地の、落葉樹の下を歩く時は、この日本の女学生のする様にずるずると靴を引きずらずに、足の裏をさっさとひるがえして、こんな風に歩くのだらうと、私はよく玉蘭の後姿を眺めていました。

彼女の家は台湾では名門らしいと皆がうわさしていましたが、なぜわざわざ日本にやってきたのか、留学といっても毎日動員では何ものならないのに、

と思いました。親しくなったのは何のきっかけだったか、ある日彼女がずっとそばに寄ってきて、「あなた私が何しに内地に来たのか、知りたい？」と言いだしました。

「私、結婚するなら内地の人がいいと思って。あっちの人はだめ、すぐ年とって横柄になるから」

「じゃ結婚の相手見つけにきたの？」
「まあそうよ」

一緒に動員されていたA大学の学生は、ほとんどが出征してしまつて、残っているのは体の悪い人と特別の研究をしている人だけでした。縫工班から農工作業にまわされることになった私たち女学生と一緒に働いている中で、頭のよい、あまりみにくくない、体の丈夫そうな人というと三人くらいしかいません。

玉蘭は、そのうちの二人に目をつけ、昼休みに草原に足を投げだしてお弁当を食べる時も、たいてい二人のうちどちらかの隣に座つて話しかけていました。

そんな彼女が、ある日急に京都に行くことにした、と言いだしました。京都には台湾の父と親しかった人がいるし、京都の大学に通っている弟さんと一緒に住むそうです。どうやら彼女の夫探しは失敗に終わった様子です。

京都に行つた彼女から手紙がきて、自分は一度結婚したこと、子供も生まれたけれどすぐに死んでしまい、結婚相手がいやになつて内地に逃げてきたこと等が書かれてありました。私が玉蘭に魅かれたのは、玉蘭の中にある母性としての自信だったのかもしれない。胸や腰のみのった感じも、自分の未だ知らない世界を通つてきたものであったことは、彼女への失望と羨望を同時にかり立てられました。

私はそんな玉蘭との短かつた交流を脚色して「洪氏玉蘭」というタイトルで小説を書き、ガリ刷りの「流動」に載せました。

玉蘭が気に入つた二人の大学生のうち、一人と結婚した私は、結局歌の世界に戻りました。自分の古いため息の

ような歌を手帳の隅などで見かけると、夢中になつて一途に生きてきた（今も多分進歩なく同じようなものかもしれないが）もうじき終ろうとする二十代の自分が目に見えるような気がします。古い歌の中から自分でもなつかしく思うものを二、三挙げます。

崖下を行く時土の匂ひして

うったえたとしと思ふ心よ

吾になきもの求むなと云ひ給ふ

静かな声心を去らず

平凡なる夫婦となりて

危うかりし愛恋の情も

ひそまりゆかむ

デパートの食堂に

パバロアという菓子をと

子と食べながら一時をりき

貧しき夫と吾と小さく家を守り

生くる俸せと云うは切なし

逆転の発想

池井 優
(慶應義塾大学名誉教授)



3 おにいちちゃんとぼくがもらったうんこのかずのちがいはなんこですか。従来、うんことかおならは臭いもの、きたないものでこれを面白くとりあげるといふ発想はなかった。うんこをお年玉にもらうことなどあるはずがない。それを逆手にとつての本作りが成功したのだ。

「まずーい、もう一杯」

「まずーい、もう一杯」

青汁を飲んだ中年のおじさんが顔をしかめてテレビを通じて訴える。

食品、飲料のコマーシャルは「美味しい」「甘い」「飲みやすい」などいいところをアピールするのが常識だ。

福岡を本拠とする会社が「青汁」を売りだす際、コマーシャルに起用されたのは、東映の俳優八名信夫であった。

八名は岡山東高から明治大学にかけて投手として活躍、東映フライヤーズ(現日本ハムファイターズ)に入団するが、怪我で選手生命を絶たれ、東映の大川社長の「長嶋や王に打たれるよ

おならとうんこの活用

電車のなかの広告をみて驚いた。

『まいにちおならでかん字ドリル―毎日かきたく書きたくなる!』。「かきたく」の箇所には××××がつけてある。これで驚いてはいけない。もつと上をいくのがあった。新聞になんと『うんこ計算ドリル』の大きな広告が出ていたのだ。宣伝の文句がすごい。

▼前代未聞全文うんこの文章題ドリル
▼「スーパールン問題」など飽きない仕掛けが満載!

例題が出ている。なおこの▼は広告では盛り上がったうんこの形という徹底ぶりだ。

おにいちちゃんが、ぼくとおにいちちゃんにお年玉をくれました。

おにいちちゃんのお年玉ぶくろには七こ、ぼくのお年玉ぶくろには五このうんこが入っていました。

1 ぼくがおにいちちゃんにもらったうんこはなんこでしたか。

2 おにいちちゃんとぼくとでは、どちらがうんこをおおくらいましたか。

り高倉健に撃たれる」の言葉に俳優転向を決意する。柄が大きく顔がこつところから、暴力団の組長、やくざの親分、悪代官、ギャングなどもつばら悪役で活躍した。青汁のコマーシャルの最初の予定は「こいつは悪人にもいいぜ」であった。しかし、試飲した時あまりのまずさに「まずいといってもいいですか」と尋ね、担当者の「その代り何かのフォローを」と言われてできたのが「もう一杯」であった。三カ月間九州限定の放映予定だったが、反響の大きさから全国放映となった。一九九〇年のことであった。

福岡出身のタモリが人気番組「笑っていいとも！」でこの青汁を罰ゲームで飲ませたことから知名度がぐんと上がり、「青汁」の代表格となった。常識の逆をいったことが思わぬ成功を招いたのだった。最近「これはあくまでも個人の感想です」との文字がテレビ画面の下に出るようになった。役所の指導によるものだという。ユーモアのセンスがわからない役人のセンスを

疑う。

「私も英語が話せなかった」

異なった言語を仲介するのが通訳の役割である。話し手の話を聞いて数十秒から数分ごとに区切って通訳する逐次通訳が普通である。メモを取り、正確を期すことができる。しかし時間は二倍かかる。これに対し、話し手の話をほぼ同時に訳出して伝えるのが同時通訳。特に日本語の場合、最後まで聞かないと肯定か、否定かはつきりしないことも多く、通訳は細心の注意を要する。言語やテーマに対する深い知識、相手の発言を予測する能力など「同時通訳者」は海外経験が長くても勤まるものではない。国際会議ではブースと呼ばれる小部屋で話者の発言を聞き、同時に通訳してイヤフォンを耳にあてている会場の参加者に伝えるのだ。極度の緊張を強いられるため、十五分ほどで交代するのが普通だという。

日本ではじめて同時通訳という職業

を確立させたのは村松増実さんであった。村松さんは早稲田大学を中退、在日米軍のタイピストから通訳を志して一九五六年日本生産性本部の通訳として渡米した。ジョージワシントン大学で国際経済学を学び、一九六五年、日本最初の会議通訳集団サイマル・インタナショナルの創設に参加した。その後、先進国首脳会議（サミット）には一九七五年のランブイエ・サミットから九回連続して同時通訳として参加、世界を舞台とする会議にはなくてはならない存在となった。

同時通訳の第一人者となった村松さんが自らの体験を綴った本を刊行した。タイトルはなんと『私も英語が話せなかった』。

「えつ、あの村松さんが英語が話せなかったの？」「『こうすれば英語は話せる』『こうして私は同時通訳者になった』でなく、『私も英語が話せなかった』と読者の意表をついたタイトルのこの本は大いに売れた。

逆転の発想はいたるところにある。